

とよたおいでんバス稲武・足助線における貨客混載事業について

豊田市は、中部運輸局「みんなの交通応援プロジェクトEx」の支援第1号認定を受け、基幹バス「とよたおいでんバス稲武・足助線」にて、足助地区から稲武地区に宅配物を輸送する貨客混載の実証実験を実施します。コミュニティバスによる宅配物の輸送は全国初の取組となります。

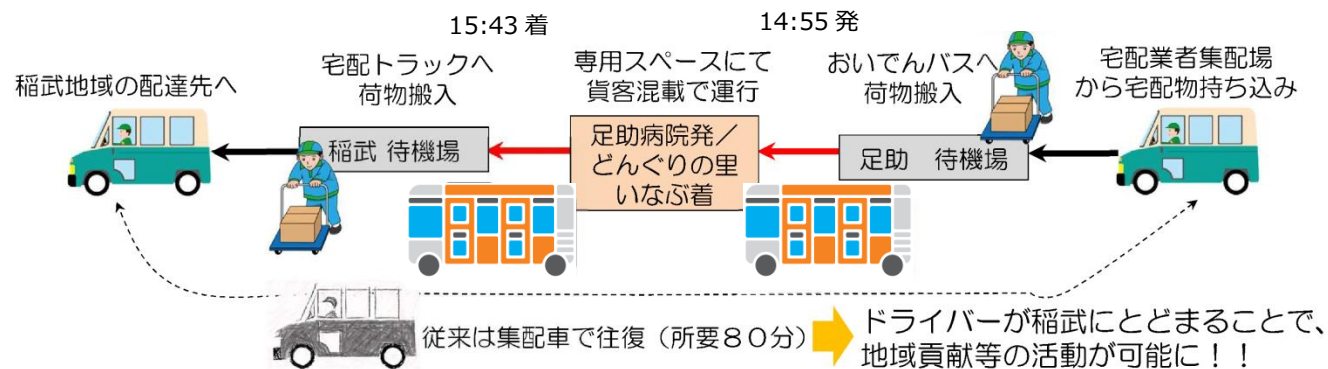
1 実証実験の目的

稲武地区など中山間地域では、通学、通院や買い物などで路線バスの重要性が高まっていますが、高齢化及び過疎化でバス路線の維持が困難になりつつあります。一方、宅配業界ではドライバー不足から物流網の維持が困難となる課題があります。今回、貨客混載を行うことにより、バス事業の収益性向上と宅配事業の効率化を図り、市、宅配事業者、運行事業者それぞれにメリットのある持続可能な仕組みづくりを目指します。

2 実証実験の実施計画

- (1) 実証期間：平成29年8月9日（水）～平成30年1月31日（水）【約6か月間】
- (2) 実施路線：とよたおいでんバス稲武・足助線
- (3) 協力企業：ヤマト運輸株式会社中部支社、豊栄交通株式会社
- (4) 実施方法：足助地区のバス待機場にて宅配事業者が宅配物をバス（午後2時55分足助病院発どんぐりの湯前行き）に積み込み、稲武地区まで貨客混載輸送を行います。終点どんぐりの湯前に到着（午後3時43分着）後、バス待機場にて宅配事業者が荷物を受け取り、稲武地区各家庭等へ当日中に配送します。なお、輸送にかかる費用は、ヤマト運輸が負担します。
※原則として毎週火～土に輸送実施。
- (5) 協定：豊田市、ヤマト運輸、豊栄交通の三者で実証実験に向けた協定を7月31日に締結

【事業概要】



3 市、宅配事業者の役割とメリット

(1) 豊田市

役割：貨客混載の仕組みづくり、バス車両改造（中型バス2台）
メリット：路線バスの収益増による経費削減

(2) 宅配事業者

役割：貨物運搬料の負担
メリット：集配効率の向上



中型バス（座席27 定員59）



貨物設置状況

4 本事業化に向けた検証

平成29年12月の公共交通会議で成果検証結果を示し、本年度中に本格運用を目指す。
（関係者ヒアリングのほか、バス利用者へのアンケート調査も実施予定）

5 今後の展開

- (1) 宅配事業者による地域貢献の検討
ドライバーの空き時間を活用し、稲武地区における地域貢献事業の実施検討例) 買い物配達、野菜の出荷支援など
- (2) 農産物貨客混載事業の検討
他路線（「快速いなぶ」など）での農産物を運ぶ事業を検討

6 中部運輸局の支援

車両改造や運行条件等の検討における助言、支援、PRの協力
※中部運輸局における「みんなの交通応援プロジェクトEx」支援第1号に認定